

## 第1 平成14年度上半期の財政状況

補正予算のポイントは何か。 予算編成のポイント

平成14年度当初予算は、いわゆる「準通年予算」として編成したことから、当初予算に本格的な肉付けを行った6月補正予算では、当初予算に引き続き、中小企業・雇用対策を一層推進するとともに、「ゼロエミッション社会の構築」や「子どもの医療やバリアフリー対策の強化を柱とした福祉施策の充実」など「県民生活の質の向上を支える基盤づくり」を着実に推進することを念頭に置いて編成しました。

なお、景気後退に伴う県税収入の落ち込みや地方交付税の減により、県財政を取り巻く環境は、大変厳しいものとなっており、行財政改革の推進にも積極的に取り組むこととしました。

また、9月補正予算では、7月の台風災害の復旧経費など6月補正予算編成後に生じた財政需要に対応するものや雇用対策のさらなる充実に取り組むこととしました。

どのような事業が盛り込まれているのですか。 補正予算の重点施策

### 6月補正予算

#### 1 中小企業・雇用対策

開放型モノづくり支援センターの整備

若者就業支援プログラムの創設

若者しごと情報拠点整備構想の策定

就業意識の醸成と、職業、企業案内などの情報提供方法の検討

高校生のインターンシップの推進

仕事探しシェルパ（先輩）による就業支援

職歴や業種別に多様な相談員（約100人）を登録し紹介する体制の整備

いしかわサイエンスパークの新産業創造拠点化

新産業創造拠点化推進連絡会の設置

共同研究・企業誘致の戦略的プロデュース

総合情報提供機能の強化

情報ネットワークインフラの充実強化



#### 2 県民生活の質の向上を支える基盤づくり

環境配慮型社会への移行

ゼロエミッション行動計画の推進

環境負荷の大きい重点分野（建設廃材、汚泥、食品廃棄物、

廃プラスチック等）を中心に、環境負荷軽減策を検討

新県庁舎ISO14001（環境管理システムの国際規格）認証取得に向けた体制の整備

子育て家庭の支援策強化

乳幼児医療費助成制度の拡充（平成14年10月から）

【入院】3歳児まで 就学前児童まで

【通院】0歳児まで 3歳児まで に拡大

ひとり親家庭等の医療費助成制度の創設（平成15年1月から）

18歳までの児童を扶養する母子・父子家庭等に対し医療費を助成

いしかわ総合母子医療センター（仮称）の実施設計

切迫早産や多胎妊娠などリスクの高い妊婦に対する産科医療と未熟児等への高度な新生児医療を一体化させ、質的・機能的に進化した医療体制を整備